

平成 26 年度 事業計画書（案）

平成 26 年 4 月 1 日～平成 27 年 3 月 31 日まで

特定非営利活動法人 富士山測候所を活用する会

1 事業実施の方針

事業別の主な計画は以下のとおりである。

(1) 総合的運用事業

- 利用者からの観測期間延長の要請を受け、約 60 日間の夏期観測期間を実現すべく測候所開所時期を早期化し諸準備を進める。
- 消費税率引き上げに合わせ富士山測候所利用料を見直し、①従量比率を高める（基本料金の引き下げと従量料金の引き上げ）ことにより少人数グループの利用促進をはかる②会員区分に学生会員を新設し学生が参加しやすい料金を設定する——などにより、より開かれた研究・教育拠点を目指す。
- 富士山頂および山麓太郎坊(標高 1300 ㍎)の無線 LAN によるインターネット設備を整備し、研究環境の改善をはかる。
- 富士山測候所送電線の小山町への分岐に対応するとともに、すでに実施している環境省バイオトイレと合わせ NPO 法人としての公益性を高めるとともに、その維持経費の負担軽減をはかる。

(2) 科学的学術的事業

- 公募による応募・審査を経て採択された 14 件（研究計画 10 件、活用計画 4 件）の事業の円滑実施を推進する。
- 山頂インターネット通信環境を活用した共同研究プロジェクトを実施する。

(3) 出版情報発信等広報事業

- PM2.5 などの越境大気汚染に対する関心の高まりに連動して増加するマスコミの報道取材に対して、積極的に協力する。
- ホームページのユーザビリティ（使いやすさ）の改善と平易でわかりやすい資料、ノベルティグッズなどの整備をはかる。

(4) 環境教育事業

- 富士山頂という学校にはない立地環境のもとでの教材開発をサポートする。（理科準備室へようこそ）
- 高所順応訓練を兼ねた富士山学校科学講座を開講する。

(5) NPO 運営その他

- 昨年取得した「仮認定 NPO 法人」から「認定 NPO 法人」の年度内取得へ向けて東京都へ申請する。

※2014 年度は以下の 3 件の助成を受けて実施される。

(1) 2013 年度(10 月-2016 年 9 月) 三井物産環境基金活動助成

地球大気環境保全に向けた富士山測候所の戦略的活用計画(その 2)"世界に開かれた日本一ハイレベルな研究・教育拠点"としての富士山測候所の再生

(2) 2014 年度年賀寄附金配分事業

日本の自然環境・生活環境を保全するための富士山頂を利用した越境酸性雨観測事業

(3) 2014 年度粟井英朗環境財団助成

富士山麓の森林大気環境に及ぼす越境大気汚染の影響調査

2 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

事業名 (定款に記載した事業)	具体的な事業内容	当該事業の (A)実施予定日時 (B)実施予定場所 (C)従事者の予定数	(D)受益対象者の範囲 (E)予定人数	収支計算書の事業費の予定金額 (単位:千円)
(1) 総合的運用事業	ア. 安全管理・登山サポート (1) 新規参加グループに対して「安全マニュアル」を事前説明し、徹底をはかる。	(A)7/1～8/29 (B)東京事務所 (C)4名	(D)研究者等 (E)未定	18,180
	(2) 御殿場基地事務所を交通利便性の高い御殿場市街地に開設し、閉所までの間、研究者の安全かつ円滑な登山支援を行う。また、山頂・御殿場・東京事務所間ではグループウェアにより情報を共有し、オペレーションの円滑化とはかる。	(A)6月中旬～9月初旬 (B)富士山頂(富士山測候所)、御殿場基地(御殿場市)、東京事務所(東京都) (C)延50名	(D)一般研究者・学生及び会員等 (E)500名	
	(3) 研究者の負担軽減のため、富士宮口、須走口のマイカー規制確認証の申請を行い、研究活動を支援する。	(A)7/1～8/29 (B)御殿場基地(御殿場市)、東京事務所(東京都) (C)4名	(D)一般研究者・学生及び会員等 (E)30名	
	イ. インフラ(建屋・電源等)整備 (1) 建物設備： CO2 計の雷による欠測対策として、2号庁舎、3号庁舎、水槽の雷対策基礎鉄骨同士を銅線で溶接する(国環研)。 (2) 電気設備： 小山町電化に対応し、4月中に送電線設備の定期点検および必要な修繕を実施、送電線分岐の円滑実施に対応する。これに伴い、環境省バイオトレと合わせた電気設備保守経費の負担を整理する。また、老朽化した測候所設置の電力計を取り替える。 (3) 通信設備： 山頂無線 LAN 環境を整備し、観測データの送信、ライブカメラ映像の送信等に活用する。また、登山拠点・観測拠点としての富士山麓太郎坊(標高 1300 ㍎)の通信環境の改善をはかる。	(A)7/1～8/29 (B)富士山頂(富士山測候所) (C)延10名	(D)一般研究者・学生及び会員等 (E)500名	
(2)科学的・学術的事業	ア. 観測研究の実施 気象庁からの夏季借入期間内(7/1—9/10)での観測期間の有効活用をはかるべく、7/1開所を目的に諸準備を進める。 なお、開所に先立ち、山頂に設置する観測機材等につき、気象庁、環境省、文化庁に対する現状変更申請手続きを行う。	(A)7/1～8/26(一部通年観測) (B)富士山頂(富士山測候所) (C)延20名	(D)研究者等(会員) (E)延500名	6,488

事業名 (定款に記載した事業)	具体的な事業内容	当該事業の (A)実施予定日時 (B)実施予定場所 (C)従事者の予定数	(D)受益対象者の範囲 (E)予定人数	収支計算書の事業費の予定金額 (単位:千円)
	<p>実施事業は以下のとおりである。</p> <p><学術科学関係事業></p> <p>(1)富士山頂における中期二酸化炭素濃度観測/向井人史(国立環境研究所)</p> <p>(2)一酸化炭素およびオゾンの夏季の長期測定/加藤俊吾(首都大学東京)</p> <p>(3)富士山体を利用したエアロゾル-雲-降水相互作用/大河内博(早稲田大)</p> <p>(4)富士山体を利用したエアロゾルの気候影響の研究/三浦和彦(東京理科大)</p> <p>(5)大気中水銀の連続観測と同期する汚染物質の観測/永淵修(滋賀県立大)</p> <p>(6)宇宙線被ばく線量評価の信頼性向上を目的とした富士山頂での放射線モニタリング/矢島千秋(放射線医学総合研究所)</p> <p>(7)富士山頂における大気電気現象および超高層大気/鴨川仁(東京学芸大)</p> <p>(8)富士山永久凍土研究/池田敦(筑波大)</p> <p>(9)富士山頂において歩行バランスに与える研究/井手里香(都立大塚病院)</p> <p>(10)夜間睡眠の状態が急性高山病に及ぼす影響/堀内雅弘(山梨県環境研)</p> <p><活用関係事業></p> <p>(11)「理科準備室へようこそ」～富士山頂での教材開発Ⅲ/古田豊(立教新座中学校・高等学校)</p> <p>(12)宇宙を想定した野菜工場のシミュレーション/村上祐資(アストロ・ファーマー・プロジェクト)</p> <p>(13)旧測候所を利用した通信の可能性について/吉田智将(KDDI株)</p> <p>(14)高所訓練及び富士山学校科学講座「日本一高い場所での高山病の話」/浅野勝己(筑波大名誉教授)</p>			
	<p>イ. 第8回成果報告会の実施</p> <p>2014年夏期観測の成果報告会を、東京理科大学総合研究機構山岳大気研究部門との共催で開催し、関係助成団体からの後援を仰ぐ。</p>	<p>(A)未定 (B)東京大学(東京都文京区) (C)30名</p>	<p>(D)不特定多数/会員 (E)100名</p>	
	<p>ウ. 東京理科大学総合研究機構山岳大気研究部門(MARD)第4回成果報告会後援</p> <p>東京理科大学総合研究機構山岳大気研究部門主催の2014年度の成果報告会を後援。理科大山岳大気研究部門との連携を強化する。</p>	<p>(A)未定 (B)東京理科大学(東京都新宿区) (C)10名</p>	<p>(D)不特定多数/会員 (E)70名</p>	
	<p>エ. 2015年度公募の実施</p> <p>2015年度の公募を実施。一次審査及び二次審査を経て3月運営委員会で決定し、採否を決定する。</p> <p>さらに富士山測候所資源の有効利用をはかるため、追加トライアル募集を行う。</p>	<p>(A)12/1-1/31 (B)HPで公募 (C)10名</p>	<p>(D)不特定多数 (E)50名</p>	

事業名 (定款に記載した事業)	具体的な事業内容	当該事業の (A)実施予定日時 (B)実施予定場所 (C)従事者の予定数	(D)受益対象者の範囲 (E)予定人数	収支計算書の事業費の予定金額 (単位:千円)
(3) 出版情報発信等広報事業	ア. 出版情報発信の強化 (1) FB、HP 及びスタッフブログ等との連携強化を図り、活動状況の逐次情報発信を心がける。ソーシャルグッドプラットフォーム gooddo に参加し、認知度の拡大をはかるとともにファンドレイジングの一助とする。	(A) 通年 (B) 東京事務所 (C) 4 名	(D) 一般不特定者及び会員 (E) 未定	500
	(2) 会報誌「美容の新風」Vol. 9 を発行し、会員及び関係先に当会の活動状況を広報する。	(A) 1 月 (B) 東京事務所 (C) 4 名	(D) 一般不特定者及び会員 (E) 未定	
	(3) パンフレット等の制作 NPO 法人の活動内容を一般向けに専門用語を極力使わずわかりやすく解説したパンフレットを制作整備する。	(A) 未定 (B) 東京事務所 (C) 4 名	(D) 一般不特定者 (E) 未定	
	(4) 第 8 回成果報告会専用サイトを立ち上げ、チラシ・ポスター、講演予稿集の制作を行う。	(A) 12 月 (B) 東京事務所 (C) 4 名	(D) 一般不特定者及び会員 (E) 未定	
	イ. 講師派遣 自治体等の要請に応え、出前講座、イベント等に参加、NPO 活動を PR する。	(A) 未定 (B) 未定 (C) 4 名	(D) 一般不特定者 (E) 未定	
(4) 環境教育事業	高所順応訓練を兼ねた、ツアーガイド付きの見学会・富士山学校科学講座を実施する。	(A) 7 月～8 月 (B) 富士山頂 (C) 4 名	(D) 一般不特定者 (E) 未定	50

(2) その他の事業

事業名 (定款に記載した事業)	具体的な事業内容	当該事業の (A)実施予定日時 (B)実施予定場所 (C)従事者の予定数	(D)受益対象者の範囲 (E)予定人数	収支計算書の事業費の予定金額 (単位:千円)
該当なし				

平成26年度 活動予算書(案)

(平成26年 4月 1日から平成27年 3月31日まで)

特定非営利活動法人富士山測候所を活用する会

(単位:円)

科 目	26年度予算 (a)	構成比	25年度実績(b)	構成比	差異額(a)-(b)	備考
I 経常収益						
1 入会金・会費収入	2,100,000	6%	2,099,000	8%	1,000	
正会員会費収入	1,500,000		1,540,000		-40,000	
賛助会員会費収入	600,000		559,000		41,000	
2 受取寄附金	1,200,000	4%	1,232,292	4%	-32,292	
受取寄附金	1,200,000		1,232,292		-32,292	
					0	
3 受取助成金等	12,330,000	36%	10,886,000	39%	1,444,000	
補助金					0	
助成金	12,330,000		10,886,000		1,444,000	
					0	
4 事業収益	18,562,800	54%	13,398,276	48%	5,164,524	
自主事業収益	13,635,920		7,932,677		5,703,243	
科学学術事業収益	4,926,880		5,465,599		-538,719	
					0	
5 その他収益	0		45,576	0%	-45,576	
受取利息	0		14,058		-14,058	
その他	0		31,518		-31,518	
経常収益計	34,192,800	100%	27,661,144	100%	6,531,656	
					0	
II 経常費用						
1 事業費	25,217,670	74%	20,073,669	73%	5,144,001	
科学的・学術的事業費	6,487,848		6,140,514		347,334	
総合的運用事業費	18,179,822		13,543,938		4,635,884	
環境教育事業費	50,000		0		50,000	
広報活動事業費	500,000		389,217		110,783	
					0	
2 管理費	8,809,000	26%	7,477,721	27%	1,331,279	
事務局人件費	5,739,000		4,894,398		844,602	
会議費	70,000		52,344		17,656	
事務局運営費	3,000,000		2,530,979		469,021	
					0	
経常支出合計	34,026,670	100%	27,551,390	100%	6,475,280	
当期経常増減額	166,130		109,754		56,376	
					0	
III 経常外収益	0		500,000		-500,000	
修繕積立金取崩益	0		500,000		-500,000	
					0	
IV 経常外費用	0		411,600		-411,600	
災害対策費	0		411,600		-411,600	
					0	
税引前当期正味財産増減額	166,130		198,154		-32,024	
法人税、住民税及び事業税	70,000		70,000		0	
当期正味財産増減額	96,130		128,154		-32,024	
前期繰越正味財産額	6,234,838		6,106,684		128,154	
次期繰越正味財産額	6,330,968		6,234,838		96,130	